

# 今後の日本経済の課題は何か

東京大学大学院経済学科教授

伊藤 元重

- \* 第三の矢は需要喚起がポイント
- \* 全要素生産性の上昇が不可欠
- \* 家計も企業もバランスシートが改善
- \* 民間企業がもっと投資することが重要に
- \* オリジナル・パラリンピックにも期待
- \* 法人税改革は需要喚起のツボ
- \* TPPが国内の生産者を動かす
- \* 海外からの直接投資を呼び込む
- \* 女性が活躍しやすい社会に変える
- \* 成長戦略と財政再建の道筋



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
今日は1年1ヶ月ぶりに伊藤先生においていただきました。ちょうど経済財政諮問会議で新しい「骨太の方針」をつくっている最終段階だそうでございます。テレビ等でもいろいろお話を伺わせていただいておりますが、たいへんお忙しい中、今日おいでいただきました。

皆さんレジュメがないということでご不満の方もいらっしゃるかもしれませんが、先生のお話を伺いましたら、いろいろなご経験から用意しないほうが良い講演ができるということでした。これは私自身も感じていることです。が、綿密に用意された講演より皆さんの反応を見ながら丁々発止でやられるほうが緊張感を持つてお話がかがえるということは確かにその

とおりかと思えます。決して手を抜いているということではございませんので、そういうふうにご理解をいただきたいと思えます。

今日は内外経済の展望につきまして先生から有意義なお話が伺えます。皆さん最後までよろしく願います。それではよろしくお願いたします。（拍手）

**伊藤** 今ご紹介いただいたように今日はレジュメもなくお話しさせていただきましたが、ただ材料はいっぱいございますので、もし後でご関心があれば参考にしていただきたいものがありますので紹介しておきます。一つは、『ダイヤモンド・オンライン』に、これまで2回に分けて合計100回ぐらい連載しております。今日お話しする話に関連したことがのっています。